

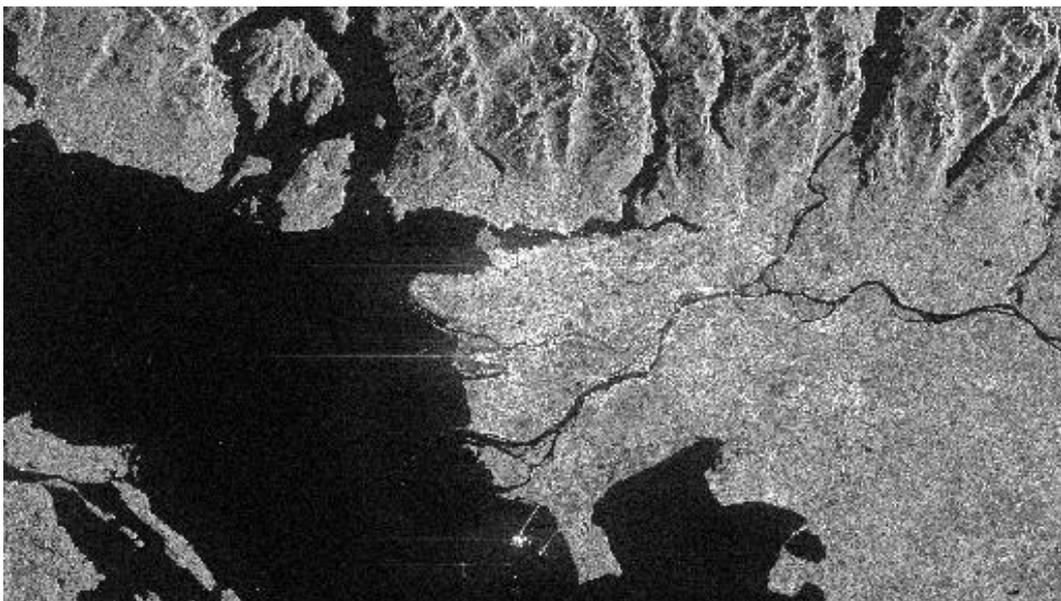
2014年4月30日  
株式会社パスコ

(報道資料)

## 高分解能合成開口レーダー衛星「RADARSAT-2(レーダーサットツー)」 撮影データの国内独占販売権を取得

株式会社パスコ(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:目崎 祐史、以下:パスコ)は、カナダの MDA Geospatial Services INC.と世界最高レベルの高分解能合成開口レーダー衛星「RADARSAT-2」のデータ販売について、このたび日本国内の独占販売に関する契約を締結し、2014年5月から、日本国内における「RADARSAT-2」の撮影データの販売を開始します。

今回契約した「RADARSAT-2」は、カナダ宇宙局(CSA)と MacDonald, Dettwiler and Associates Ltd.(MDA)が共同で開発し、2007年12月の打ち上げ以降、すでに6年の運用実績のあるCバンド合成開口レーダーによる地球観測衛星です。現在、主に日本国内で商業利用されている地球観測衛星の種類は、光学系と合成開口レーダー系に区分されます。その中で主な合成開口レーダーデータはXバンド、Cバンド、Lバンドの3種類に分類されます。今回の契約によりパスコはXバンド合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X(テラサーエックス)」、Cバンド「RADARSAT-2」を取り扱うこととなります。また、我が国においても今年5月にはLバンド合成開口レーダー衛星の打ち上げが予定されており、今後パスコは、これら多種類の観測データを利用し、更なる情報収集能力の向上を目指します。



RADARSAT2 撮影画像(バンクーバー)

## ■パスコにおける衛星事業の変遷

パスコは、2004年のスマトラ沖の地震による津波災害を機に、従来の航空機による観測に加えて、地球規模で観測できる人工衛星を活用した災害モニタリングシステムを構想・実現し、現在まで災害情報の速やかな提供と防災支援を着実に推進してきました。

現在、パスコが取り扱う人工衛星は17基となり、沖縄県糸満市、北海道千歳市に自社の人工衛星受信局(アンテナ)3局を開局しています。また、人工衛星を用いた測量や、人工衛星画像のデータ解析・判読処理を施した防災、農業、森林、環境などのリモートセンシングによるアプリケーションサービスも展開しています。

東日本大震災においても、Xバンド合成開口レーダー衛星「TerraSAR-X」や、多くの光学衛星の撮影画像を活用し、津波の浸水区域判読(推定)や湛水区域のモニタリングなどを実施し、いち早く、関係各機関に対して解析結果等の情報提供を行いました。

今回の契約締結によって、パスコは人工衛星の取り扱い数を増やすと同時に、観測可能頻度の向上とセンサの多様化を図りました。こうした技術の拡充により、パスコは取得した空間情報に更なる付加価値を加えたサービス提供を行ってまいります。本サービスが充実すれば、多くの公共機関・企業活動・人々の生活に大きく貢献することが可能になると考えています。

## 【MDA Geospatial Services INC.】

MDA Geospatial Services INC.は、MDAの子会社であり、カナダに本拠地を構え、「RADARSAT-2」の販売を手がけている。1989年設立以来、地球観測衛星事業を展開するリーディングカンパニーのひとつとして世界60カ国以上に、商用衛星を利用したソリューション事業を提供している。

親会社のMacDonald, Dettwiler and Associates Ltd.(MDA)は、宇宙機器・人工衛星の開発・製造、衛星通信の配信、地球局の提供、地理空間情報サービスを提供する宇宙関連企業(本拠地カナダ)である。現在世界11箇所に拠点をもち、4,500名以上の従業員を擁している。

## ■本件に関するお問合せ先

株式会社パスコ 基幹業務部 広報担当

TEL:03-6412-2800 /「お問合せフォーム」 <http://www.pasco.co.jp/contact/>